

工夫して取り組んだこと

運営方式

- 利用者名簿を用意し、氏名・連絡先を記入してもらった。
- 一家庭の利用時間を短縮することで、外での会話やコミュニケーションに時間を作ることができ、より利用者の現状の把握を促進させることができた。
- 予約不要で誰でも利用できるようにした。
- コロナ禍での食事の提供となるため、事前登録・申込制とした。
- 加熱処理を中心としたレシピの工夫や、持ち帰りが許される料理の料理教室の開催形式をとった。
- 利用者が分かりやすいよう、下膳場所やオープン時間など掲示した。
- 参加者がセルフで配膳・下膳を行い、主体的に参加できるようにした。
- 近隣小学校での給食時の様子（会話や机の並びなど）を調査し、それに準じた会場づくりを意識した。
- 受付・注文の効率化、コロナ禍においてなるべく非接触にすることを目的としてQRコードを利用して受付・注文はスマホで完結できるよう設定した。

感染症対策全般

- 食堂形式でなくお弁当での提供形式で行った。
- スタッフの検温・消毒を徹底した。
- おかわりの際は食器ごと新しいもので提供した。
- 換気の徹底や空気洗浄機・二酸化炭素測定器を設置した。
- ペーパータオルを使用した。
- 使い捨て容器を使用して料理を提供した。
- 新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、体調チェック表を用意した。
- バイキング形式ではなく、食事は各々トレイにのせて配膳した。
- テーブル間のスペースを十分に確保し、利用者間で距離を保てるようにした。
- 受付時、体調確認・非接触型体温計での検温・手指消毒を実施した。
- 各テーブルに消毒液を設置し、食後についてもテーブルの消毒を実施した。
- 調理スタッフの手袋着用をスタッフ間で毎回確認した。
- 黙食の励行、食事前後のマスク着用を徹底した。
- スタッフのフェイスシールド着用。
- 保健所の方に来ていただき、食品衛生の講習を受講した。
- 受付、食事テーブルに飛沫防止用のアクリル板を設置した。
- 初めての来所者に災害時・緊急時・新型コロナウイルス感染症発症時連絡用に「利用者登録用

紙」を記入してもらった。

- 食事前の手洗いの励行、消毒など徹底した。
- 予約制にして提供時間を分散し密を回避した。
- 食後は短時間の滞在にしてもらった。
- 列に並ばれる時は、必ずマスクを着用していただいたうえ「距離をとって並んでください」との声掛けを行った。

食 事

- 卒業・入学おめでとうのボリュームメニューとお菓子を添えてお祝いした。
- 利用者名簿でアレルギーの有無についても確認できるようにした。
- テイクアウトで共食ができないことで、孤独感を与えないよう彩を意識したお弁当作りをした。
- 安定的に個数を供給できるよう、メニュー・スタッフ体制について検討した。
- 野菜等の食材提供の声掛けを地域の皆さんに行い沢山の食材を寄付いただけた。
- ご支援いただいた旬の野菜（根菜類含）を活かした料理を提供した。
- 3月は卒業式・修了式といった節目の月であることから、お祝いの気持ちを添えたいと思い、メニューの一品として「いちご大福」を手作りして食べてもらった。
- 子どもたちを中心にカレー作りに必要な材料や工程を考えて話し合い、それぞれの担当者を決め、買い物から調理、食後の片付けまでを体験させた。
- 子ども・大人両方に喜んでもらえる料理を提供した。
- 誤食予防のためにカラー輪ゴムを使用した。
- おにぎりのご飯玉を事前に作り、各々が好みの具を入れ、手で形を作り海苔で包むことで、自立の一步になるよう工夫した。
- 「一緒に食べて家庭的な温かさ」を味わうこと、栄養バランスの取れた食事を提供した。
- 「外国にルーツがある子ども」たちの教育支援・生活支援等をしており、自分たちの文化に誇りを持ち、また、他の文化にも敬意を払えるように、さらに当事者が活動の中心になるように、保護者や当事者を巻き込みながら、故郷の料理を教えてもらい、一緒に作り、さまざまな国の料理を楽しむことを心がけた。

様々な工夫

- 地域の活動団体（趣味・サークル等）に呼びかけて、地域親子との交流の場づくりを行った。結果として相互理解、地域社会の理解の拡大に繋がった。
- 近隣小中学校全生徒にチラシを配布し、周辺掲示板へポスター掲示、SNSで告知を行い、PR活動に努めた。
- 子どもと高齢者が自然に交流できるような内容にするためにボードゲームやトランプ、

将棋、かるたなどを用意して、一緒に楽しんだ。

○次回の予定を記載した名刺大のチラシを利用者に配布した。

○物価高騰のため、地域の方に協力をお願いした。(お米の寄付、農園より野菜の寄付)

○食事会に加えコンサートを行った。

○読みやすく、楽しいチラシを作成し、町内で回覧してもらった。

○のぼり、のれん、スタッフエプロン等で、明るい会場作りを行った。

○フードドライブを活用して食事提供を行った。

○絵本コーナーを設置した。

○募集方法は回覧チラシに二次元コードと電話申込の二通りを設定し、様々な世代の方が積極的に申し込みしやすいようにした。

○チラシを連合町内会エリアで回覧、掲示板への掲示、小学校には全員配布、中学校・保育園・幼稚園にも掲示をお願いした。

○食事以外の催しとしてソーシャルスキルトレーニング、色をテーマにしたグループワーク、フィールドアクティビティとして山桜を眺めながら散歩、ギタリスト講師を招いて参加者でのテーマソング作り等を行った。

○子ども食堂のチラシを作成し、自社ホームページに掲載したほか、フェイスブック、インスタグラム、ブログ等SNSにて子育て世帯がスマホで情報を取得しやすいよう周知を図った。

○活動休止中も本部・食堂リーダーで「定例会議」を実施し、議事録をボランティアに配信したり、「食堂だより」を年2回配信し、寄付協力者、ボランティアに配信することで本部の考えを伝え心の繋がりを保った。

○地域の方(地区連長、町内会長、地区社協、民生委員、スポーツ青少年指導員、小学校、幼稚園、保育園、区役所、区社協、ケアプラザ、近隣の方)にご理解・ご協力を得るため、プレゼンを実施。またイベントとしてご招待したところ、16名の参加者があり、みんなの食堂に対する思いを共有することができた。

活動するにあたり苦労したこと

手間の増／担い手の不足

○利用者の増加に伴う作業量の増加・食材調整。

○中学校区に2つの小学校があり、小学生が1人でも安全に通えるように各小学校に近い自治会館2か所を活動場所としているため、自治会館間の物品等の移動が大変な重労働となっている。

○コロナ禍で持病のあるスタッフが多かった為、スタッフ確保が難しかった。

○スタッフの確保、集めに苦労した。

コスト増

- 多くの家族に弁当が提供できるよう地元限定にし、大人は1家族1個までにした。
- 真冬でも換気を徹底していたことにより暖房費が上がった。
- 宅配可能なお店は単価が高いことが多く、予算を考えながらなるべく手頃な価格で、皆が喜ぶようなお弁当を探すのが大変だった。
- 限られた予算の中で食器や調理道具をそろえる必要があったこと。譲ってもらうことで必要数を確保した。
- 物価高騰による食材の確保が難しかった。地域にいる農家さんへ声掛けして野菜を寄付していただき対応した。
- 新型コロナウイルス対策での手袋や弁当容器の費用がかかること。

広報活動／情報収集

- 家庭事情により、孤食や食事を十分に食べられない子どもたちが来るのを目的としているが、本当に必要としている子どもたちが参加できるようになるまでに時間がかかったこと。
- 子ども食堂を実施する拠点探しを保健所に相談する中で、関係のある福祉施設のキッチンやホールを、活動の休みの土日に借用することが難しいと回答され、会場探しから始めなければならなかったこと。
- 人と人がつながり顔の見える関係を作り孤立や、分断のない社会をめざし会食の形式としていたが、数名しか来ない時もあったが、保育園、幼稚園等地域にチラシ配布を行った。来てくださった方たちの口コミで徐々に増えてきた。
- 参加者が固定となりがちであるため、より広く、伝え広報することに苦心した。

今後の課題

担い手の確保

- 地域の人にこの活動を知って頂き、ボランティア・応援の強化を図りたい。

資金面

- 利用者増加に伴い、食材費も増加。地域の有志の方の寄付なども積極的に受けていきたい。

運営方式／運営の方向性

- もっと多く子どもたちや高齢者の方に参加してもらえるように、ボードゲームだけではなく、高齢者が何かを教えるような内容を検討したい。
- 席数に限りがあり、長く待たせる事があるため、入替え制や予約制も導入を検討したい。
- 必要な方に届くサービスを展開するため、SNSやポータルサイトを運営していきたい。
- 参加者を登録制度にして、繋がりあえる場と展開していく。

広報／情報収集

- 必要としている家庭に知ってもらう為に、チラシ配布等の広報活動をしていきたい。
- 困っている方々にもっと繋がれるような広報活動に力を入れて行くと共に、それぞれの事情に合わせたきめ細やかな支援ができるよう、アンケートや SNS 等を活用してニーズの把握に努めていきたい。

様々な工夫

- コロナも落ち着き、食事だけでなく色々なイベントもできる子どもの居場所を作りたい。
- 食文化の違う方たちへの対応についても念頭に置いてメニューを検討したい。
- 地域へのフードドライブなどを進めたいが、商店街などの協力が欠かせないため、密接な関係を取っていきたい。
- 食後の催しとして一緒にゲームをする等を検討。
- 食べるだけでなく居心地のよい食堂にすること。
- コロナ対策、また子どもたちの宗教や文化への配慮をすると同時に、「困っている子ども」「孤立している子ども」を見つけ出し、孤立させないようにすること。
- ボランティアスタッフの確保や食材などの寄付をしてくれる方々の開拓などに力を入れ月に開催する頻度を上げたい。
- 昨年末から始めた「ひとり親家庭」への参加呼びかけを強化・継続していきたい。